

今後の世界遺産登録の方向性（登録に向けたアプローチ）の検討について（案）

1 趣旨

世界遺産登録に向けた「顕著な普遍的価値」証明のため、学術調査を進めているが、その調査結果を踏まえ、今後の世界遺産登録の方向性を定めていく必要があることから、有識者を委員とする検討会議を設置する。

2 方向性決定の枠組みと進め方

- (1) 有識者を委員とする新組織を協議会内に設置（（仮称）「鳴門の渦潮」世界遺産登録検討会議）し、今後の世界遺産登録の方向性（登録に向けたアプローチ）について、検討を進める。
- (2) 登録検討会議の検討結果を踏まえ、幹事会・総会において今後の世界遺産登録の方向性を決定し、大阪・関西万博において情報発信を行うとともに、推進方策を検討のうえ取り組みを進める。

■ 登録検討会議の役割

- 世界遺産登録に向けた方向性（登録に向けたアプローチ）の検討
 - ・推進協議会としての調査研究結果の評価
 - ・海外連携の戦略（類似資産調査、IUCN テーマ別研究）の検討

（参考）世界遺産登録の方向性（登録に向けたアプローチ）の選択肢

- ・自然遺産でのアプローチ
- ・文化遺産でのアプローチ
- ・自然と文化を融合させた新たな基準でのアプローチ
- ・他の選択肢でのアプローチ

■ 有識者候補

中瀬 勲 氏（兵庫県立人と自然の博物館館長、自然側学術調査委員会委員長）

【専門分野：造園学・景観計画、農学】

金田 章裕 氏（京都府立京都学・歴彩館館長、文化側学術調査委員会委員長）

【専門分野：人文地理学、歴史地理学】

吉田 正人 氏（筑波大学世界遺産学教授）

【専門分野：生態学、世界遺産学】

※ R4 世界自然遺産登録基準に関する調査研究業務実施

[オブザーバー]

大野 渉 氏（株式会社ブレック研究所 世界遺産センター長）※R4 国内調査業務受託者

〔（仮称）「鳴門の渦潮」世界遺産登録検討会議〕 ◎：共同代表

役 職	所属・役職	氏名
◎委員	兵庫県立人と自然の博物館 館長	中瀬 勲
◎委員	京都府立京都学・歴彩館 館長	金田 章裕
委員	筑波大学 世界遺産学学位プログラム 教授	吉田 正人
委員	兵庫県淡路県民局 局長	藤原 祥隆
委員	徳島県未来創生文化部長	佐藤 泰司
委員	南あわじ市総務企画部付 部長	家田 和幸
委員	鳴門市産業振興部 部長	阿部 聡
オブザーバー	株式会社ブレック研究所 世界遺産センター長	大野 渉

3 R8年度までのスケジュール（予定）

- | | | |
|-----|-----------------------------|-----------|
| R 5 | 検討会議設置に向けた調整 | (4～7月) |
| | 検討会議の設置 | (7月) |
| | 第1回検討会議 | (1月) |
| R 6 | 年3回を想定 | (6、9、12月) |
| | 総会で方向性を公表 | (3月) |
| R 7 | 大阪・関西万博での情報発信
(国際シンポジウム) | (9月) |
| R 8 | 国、ユネスコ関係者への働きかけ、国内外への情報発信 | |